

サツマイモの小苗栽培体系の安定栽培技術

小苗栽培体系は、密植と栽培日数を確保することで慣行栽培体系並の収量となる

背景・目的

- ・サツマイモは本県畑作の基幹作物であるが、その生産は高齢化や労力不足により減少傾向
- ・サツマイモ栽培体系の中で人力による作業時間の長い育苗・採苗及び植付けを、軽労化・省力化する小苗栽培体系を開発
- ・慣行栽培体系と同様な方法で栽培すると収量がやや低く、収量を高めるための栽培法の確立が必要

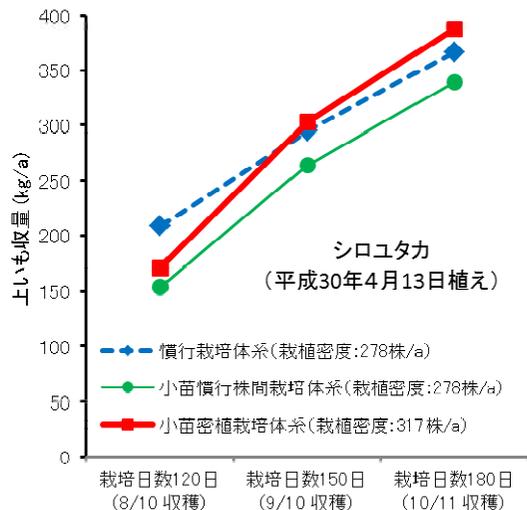
成果の内容

○小苗栽培体系の植付け苗



○小苗の特徴

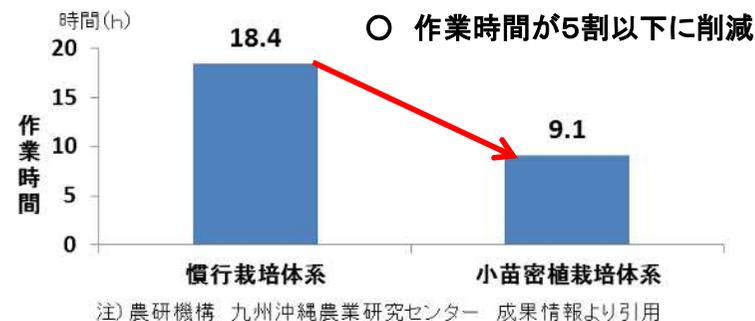
- ・茎長15cm ・草丈20~25cm ・節数4~5節
- ・左右に広がった小さい茎葉で、やや軟弱
- ・取扱性に優れ、採苗間隔を短くできる
- ・機械植付けに適した形状



【小苗栽培体系の特性】(技術の適用品種:コガネセンガン, シロユタカ, ダイチノユメ)

- ・小苗栽培体系は、一株個数が少なく、慣行栽培体系と同じ栽植密度では減収
- ・4月植え:密植で上いも個数を慣行栽培並に確保, 栽培日数の経過に伴い上いもが肥大し、慣行栽培並の収量になる
- ・5月植え:密植でも慣行栽培体系並の収量にはならないが、4月植え並の収量

導入メリット



【作業時間の削減】

- ・育苗:縦伏込みの一斉採苗方式で、採苗、調苗作業の軽労化、省力化
- ・植付け:小苗移植機による植付けで、軽労化、省力化

作業が軽労化・省力化されつつ、慣行栽培並の収量が確保できる栽培法を確立
→ 栽培面積の維持、拡大
生産の省力化、軽労化による経営安定

期待される効果

原料用サツマイモ生産の省力化及び軽労化による経営安定

鹿児島県農業開発総合センター大隅支場

普及対象・範囲

でん粉原料用及び焼酎用サツマイモの生産者

(革新的技術開発・緊急展開事業(地域戦略プロジェクト))